福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

（財）第五福竜丸平和協会

〒136　東京都江東区夢の島3－2
都立・第五福竜丸展示館内
電話（521）8494

●100万人参観者運動を！

'83年5月来館者数	8,329名
通算1カ月平均来館者数	4,276名
当月1日平均来館者数	320名
通算来館者数	359,317名

具体化してきた資料室建設

斎藤鶴子

風薫る五月七日、赤いつつじが燃え、たんぽぽが白い穂絮を夏雲に向けて飛ばす午後一時、夢の島の第五福竜丸展示館前で長崎に向かう平和行進出発の集会が開かれました。

なかでも印象深かったのは車椅子で参加された藤井日達上人の祈りにも似た「核兵器廃絶」への言葉でした。

今年の平和行進は二〇年ぶりに原水爆禁止八三年世界大会準備委員会として統一して行われたことは大変うれしいことでした。

一つの目標に向けて力を結集すること、統一こそ力であることは歴史を繙くまでもなく身近かにしばしば体験するところです。

昨年来、ヨーロッパに高まりつつある反核運動――緑の党やイギリスのグリーナム・コモンの「核もちこみ」反対の女性平和キャンプ、近くはアメリカのカトリック教徒の立上りなど積極的な行動をきくにつけ、日本ではじめられた筈の原水爆禁止運動はいま、どれだけ力を発揮することができるのか、不安を感じていた矢先でした。

世界の核兵器の量、質、共に著しい発達を遂げ、最近のWHOの国際専門家委員会の報告によれば、米ソの保有する核の〇・二%の二〇メガトンの核爆発によって九百万人の死傷と長期間の病気と飢を世界にまん延させると予想しています。

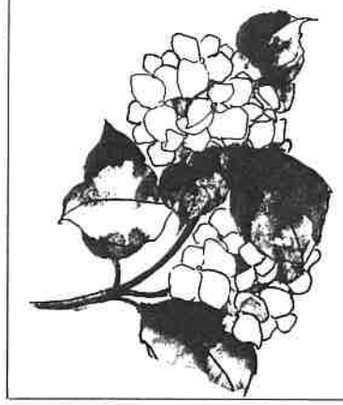
昨年の第二回国連軍縮特別総会に提出された三千万人の署名を署名に終らせることなく、具体的に日本は平和憲法を守り、「非核三原則」を堅持し、軍拡に歯止めをかける力となってゆくようあらゆる努力がなされなければと思います。

第五福竜丸展示館は来る六月十日は七周年にあたり、平和協会は来年十周年を迎えます。昨年暮からはじめられた福竜丸補修、補強の工事は今年三月無事完了し、展示替えも行われ、館内も明かるく面目を一新しました。

さらによろこばしいことは、長い間話し合われ、募金も静かに続けられてきた資料室を是非という運動も少しずつ具体化してきていることです。

一日も早く展示館の隣接地に資料室を建設することができて、今まで一般公開されていなかったビキニ水爆に関する図書や資料など展示することにより被爆の実態を明らかにし、参観者へ訴えてゆくことができれば、展示館の意義も一層深められるものと、心待ちにしております。

（平和協会理事・草の実会）

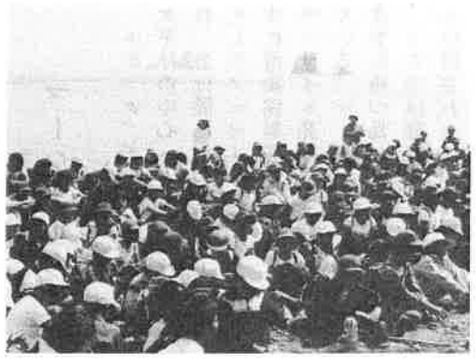


活気あふれたさつきだより

さわやかな五月は、夢の島に潤いを与え、緑の島にもさまざまな野の花が咲きみだれ、一年の中でも一番いい季節です。展示館も活気があふれたひと月となり、八、三二九名の見学者を迎い入れることができました。

福竜丸のふるさとより

〝平和の旅〟と題して、第五福竜丸が造られた和歌山県より、多くの中学生が福竜丸を見学。五月八日（日）は、古座中、連合中、串本中の三校、日をずれて他二校が相次いで訪問、この間和歌山一色となりました。



保戸島小学校の子どもたち
瀬の浜への遠足。

平和への誓いを新たに

五月十二日、久保山愛吉碑の前で岐阜県の明智中の要請で被爆体験を聞くつどいがあり、東友会常任理事の藤原肇さん、葛飾区立上平井中学校の江口保先生のお二人が参加されました。その日に見学に来ていた千葉県の日の出学園の三〇名の生徒たちもこの機会に恵まれ、みんな輪になって原爆がもたらした惨状を熱心に聞き入り、平和への思いをあらたに刻みこんでいました。

子どもらの笑顔をこめて

先月のたよりで紹介した大分県の保土島小の先生より再び手紙が届きました。子どもたちの作文の返事にあてた、まっ白ぶねからの手紙に喜こんでいる子どもたちの様子や、新年度の平和教育の方針など、子どもたちのスナップと一緒に五月の風がはこんだ嬉しいたよりです。

来館者の声から

わたしの学校はクリスチャンです。それに学校に広島・長崎の原ばくの本があります。それには同じ写真がのっています。そして、八月九日に生まれたわたしは、とくに原ばくがきらいです。わたしは、そうり大臣に「せんそうはしないでください」とお手紙を出します。本当にせんそうがなかったらいいです。人間はいけないと思います。原ばくをつくった人は、「こんなものをおとされたら大変だ」そう思ってせんそうがなくなるためにつくったのに。せんそうにつかうなんて――――。（佐伯）

＊

アメリカが水爆実験をやりたいならば、ニューヨーク市内でやればよい。どんなにおそろしいか身にしみてわかるでしょう。

＊

今年は初めての参観であるが、今まで何回も来たが今年は特に来て良かったと思うと同時に、今程この地球より原爆をなくす重要性を痛感します。私もビキニの水爆実験後の原水爆禁止運動に取り組んで、自分なりに働いたと思っていたがまだ原爆がある限り、働きつづけたい。（野島満男・58才）

＊

むごいと思った。日本は戦争しないといったのに戦争やミサイルなんかかわなくていい。日本にある軍事基地をなくせ！沖縄のアメリカ軍の基地をなくせ！今の日本はまちがっている。アメリカ、他の国々は水ばく、原ばくをつくるな。亡くなった人のことをどうしてアメリカが責任をとってくれないのか。アメリカはひきょうや!!

串本中　C&M

＊

思っていたより船が大きかったんでびっくりした。ひ害をうけた時の使っていたものをみると、なんか、ああすごいなぁと思った。やっぱり戦争はやめた方がいい。久保山さんのゆい言どおりしてほしい。

＊

あまり書くことない。いろいろと思ったことがあるけどうまく言葉で書き表すことができんから。

地域住民と結びついた創造ある運動へ

吉村道興

過去に学ばない者に未来はない。十年も前になりますが、知人に誘われてハワイに旅行したことがあります。

真珠湾巡りで、日本海軍が撃沈した、戦艦アリゾナ号が海底に沈んだまま、その上に白色に塗られたアリゾナ記念館を見せられたとき、日本人観光客の一人が発した言葉を今でもはっきり記憶しています。

「ヒロシマの街をそのままにしておけばよかった。」

記念碑、記念館等は世界中いたるところにありますが、それぞれの歴史的背景を持って建設されたものです。

第五福竜丸展示館もその意義深い存在は改めて強調するまでもありません。

'83 平和大行進展示館前出発
5月7日　午後2時

しかしながらその現状は不充分なものであることは言をまちません。

展示物の充実、拡大、資料館の建設、今なおアメリカ軍政下にあってミサイル実験場に使用され困難な生活を強いられているマーシャル諸島島民の紹介、ビキニ環礁荒廃の紹介等々課題は背負い切れないくらい大きなものです。

その外都内には品川・東海寺、江戸川・葛西に被爆者の慰霊碑があり、目黒・下目黒の羅漢寺には広島で被爆死した、丸山定夫以下七名の俳優の原爆殉難碑があります。

これらの記念碑はいずれも身近にあって、いつでも訪れることができます。これらの記念碑、慰霊碑が余りに身近な存在であるために我々自身が忘れているのではないかと考える程です。

これらの諸建造物は日本国民の平和への願いをこめた小さな存在に過ぎないかも知れません。しかし三十七万人の生存被爆者の、核兵器の完全禁止の署名運動に参加した数千万にのぼる人々の平和への意志を結集した巨大な存在であるとも理解することも出来ます。

子どもらに平和の尊さを「第二回平和・軍縮教育フォーラム」が先月、横浜市開港記念会館で開かれ、〃草の根運動と平和・軍縮教育〃に参加しました。ここでは、高校生平和ゼミナールを担当している先生方の発言や、韓国人被爆者問題などが中心に討議されました。平和ゼミナールをとりくむ生徒自身も自分たちの生活を見なおしている様子などが伝えられました。また、平和教育の場としての第五福竜丸展示館の役割について報告しました。（も）

都内で運動を推進している私達はもう一度、これらの記念碑と都民一人一人の生活との関わりの中から地域住民参加の新しい運動形態を創造するよう努力する時期に直面しているのではないでしょうか。

（平和協会参助会員）

□東海寺
品川区北品川三―一一
（四七一―六九四三）

□五百羅漢寺
目黒区下目黒三―二〇―一一
（七九二―六七五一）

□江戸川区被爆者慰霊碑
地下鉄東西線葛西駅際
滝野公園内

死の灰から三〇年〈3〉

マーシャルの被ばく者たちはいま―その1

写真・文　桐生広人

トラック、ポナペを経由し機が太平洋の中心へと飛び続けるにつれ、外は闇につつまれはじめた。そしてクエゼリン島。完全な闇の中に滑走路周辺のレーダーサイトやミサイル発射場に照明が明滅している。マーシャル諸島で唯一つ夜景を持つ島だった。

ここでは駐機中も機外に出ることは許されない。狭いイスのため足腰はすっかりしびれきっていた。突然、座席後部のハッチが開いて航空会社の職員が後ろの座席を取りはづし二人分のベッドを乗せはじめた。空港の闇の中から救急車が接近し、二つの担架が機内に運びこまれた。病人はベッドに横たえられた。この間、乗客（白人ばかり）には何の説明もない。人々は後ろを振り返っては何事かとささやきあっていた。が、病人につきそってきたするどい目つきをした若い男の一べつで人々は沈黙した。

マジュロにむかって機が飛び上った後、トイレに立つ途中、病人を見た。一人は六〇歳すぎの老人で、点滴を受けながら酸素を鼻から吸入していた。腕の皮膚が出血傾向にあるらしく薄いガーゼでおおわれていた。もう一人は二〇歳前後の若い女性で、シーツにくるまっていた。顔があった瞬間、少しほほえんだようだった。どちらも外傷はなさそうだが重い内科的疾患らしい。二人の行先きは、ハワイかカリフォルニアの大きな病院だろう。

死の灰から三〇年マーシャル諸島の核被害の現実を少しでも知ろうとする取材の矢先きにであったこのできごとは、きわめて暗示的だった。緊張感はいや応なく高まってきた。

エレン・ポアスさん。49歳。死の灰をあびたあと，放射線の影響で甲状腺の機能障害がおこり，1977年と1980年，二回にわたってその摘出手術をロスアンゼルスの病院で受けた。

新年度予算、役員改選　第54回理事会

五月十三日、平和協会第五四回理事会が開かれ、昭和五七年度の決算を承認するとともに昭和五八年度の予算を決定、新事業計画のもと新年度の出発をしました。二年任期の役員改選もおこなわれ、理事六名、監事二名を選出しました（いずれも再任）。

理事　三宅泰雄（会長）、檜山義夫（副会長）、斎藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美。

監事　田中健介、松井康浩

展示館開設七周年記念祝賀会ひらく

六月六日、日比谷公園松本楼で第五福竜丸展示館開設七周年祝賀会が関係者約四〇人の参加を得て盛大にひらかれました。一年間の活動をまとめた「管理レポート第七集―平和を問いかける船と共に」が参加者に配られ、団体の見学が大幅にのび五〇％にも達したこと、館内の整備もすすみ資料室の建設は急務になっていること、来年の被災三〇周年にむけ一層の発展をなどなごやかにこんだんしました。